



海苔種(糸状体)の準備



五十鈴神社の鳥居が復旧しました



ボランティアの方の支援により体験用テントが出来ました(1800×1100cm)



- 1、体験観光復興地に国の補助事業で平成24年3月まで200人規模の屋内体験施設(テント)、昼食用具(BBQ)を整備。
- 2、体験施設は月浜漁港、海水浴場まで200mで、種々の漁業体験ができ、避難場所まで100mと近く、安全、安心を提供できます。
- 3、体験観光も携帯ラジオを装備して災害や津波対策にも、万全を期します。

東松島市体験観光復興プラン



復興の将来像

- 1、奥松島月浜地区に体験観光を集約。
- 2、宮城県松島自然の家を近隣に誘致の要望。
- 3、避難道路もあり、200mで避難出来る。
- 4、漁業体験漁場まで漁船で5分の距離です。

東日本大震災前の奥松島を取り戻す
取り組みを今後も続けたい。

平成23年度食と地域の絆づくり被災地緊急支援事業



よみがえれ 宮戸の漁り

震災と地区の復旧・復興

2011年3月11日、東日本大震災は、東北地方沿岸を襲い、壊滅的被害を被った。
目撃者の話によると、津波は黒い煙のような、約8mほどの高さと言われています。



震災前の月浜・海岸より五十鈴神社を望む



震災の月浜地区



月浜の広場のガードレールに車が乗り上げる



震災の様子ガシキの山



ベンションが道路を寸断



宮戸の入口、松ヶ島橋が寸断して孤立

宮戸地区の被害状況

宮戸の入口、松ヶ島橋が寸断、陸の孤島に

月浜住民は一時、民宿かみの家近くに避難したが、大津波が襲来するとの報道がありマイクロバスで2回宮戸小学校に避難した。

かみの家や、付近にいた人たちは、その後宮戸小学校に移動をしたが、大浜から津波が押し寄せたため避難を断念、かみの家へ、40名ほど避難した。

この震災で、月浜地区は1人の犠牲者もいなかったのが不幸中の幸いです。

この震災により県道松ヶ島橋が寸断、陸の孤島となりました。

電気、水道、電話が寸断され、自給・自足の生活になりました。

かみの家が避難所で裏側で湯を沸かし、向かいで食事の準備をして共同生活が始まりました。



釜で湯を沸かし、洗濯等に利用



かみの家前の倉庫が臨時の炊事場となる

共同生活がはじまりました

奥松島の現状は漁業・観光が中心です。各戸には発電機、揚水ポンプ、ガソリン、灯油、冷凍庫、水タンク、ドラム缶タンクなど流失されないものがあり、自給自足の共同生活を支えました。

さらに地区民は被災した中から利用できるものを拾い共同生活に利用しました。

- ① 飲用水・宮城県漁協・宮戸西部支所の海苔製造に使用するタンクに200tあり、それを各地の水タンクに保管して使用しました。
- ② 洗濯水・・・地下水を利用して汲み上げるのに揚水ポンプを使用し各戸にあったガソリンを利用しました。
- ③ 燃料は被災した廃材を利用しました。
- ④ トイレは近くの畑に穴を掘り、簡易トイレを作り利用しました。
- ⑤ 食料は家庭の冷蔵庫、冷凍庫にあったものを解凍したもから順序よく利用しました。
- ⑥ これらの作業は当番制で行った。
- ⑦ やがて支援物資が自衛隊のヘリコプターにより届けられ自給自足の生活から行政の支援物資の生活に移行した。
- ⑧ 4月に自衛隊の支援で、松ヶ島橋が仮復旧して道路が開通した。
- ⑨ 4月中旬に入ると道路の開通に伴い、多くのボランティアの支援が本格的になり、被災地は落ち着きを取り戻しました。



お風呂の支援により毎日入浴できました



避難所の様子

6月に入るとガレキの処理と仮設住宅の建設が始まった



ガレキ処理後、左前方が月浜海岸です



仮設住宅建設（7月30日入居）



地区のコミュニティが出来ています



海苔のイカダの復旧

ここまで多くのボランティアの方の支援があり、精神的な支えとなりました。

早く、復旧・復興したいとの思いが生まれてきました。

産業の復旧・復興に向けた作業が始まりました。